

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人 仁秀会		
事業所名	グループホームたいよう	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北6219-42		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4572000752-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム開所から今年で1号館が15年目、2号館が7年目となります。入居者一人一人がそれぞれの人生を歩み、今この「たいよう」で生活されています。歌が好きの方、料理が得意な方、習字が得意な方、季節の装飾品を作る方、踊りが好きな方…と一人ひとりが自分らしく過ごすことが出来るよう、入居者の方々と共に支え合いながら日々を過ごしています。近隣の方や老人会・小学校の児童・ボランティア等の訪問や、ドライブ・買い物・ピクニック・家族との外出や外泊等も積極的に、本人がこれまで大切にしていたつながりを絶やさず生活できるよう支援に努めています。また「たいよう」は、私たち職員も明るい笑顔と温かい気持ちで仕事出来る職場だと感じます。職員同士が思いやりを持って助け合い、声を掛け合う、そんな職場です。今後も全職員が『もてなす心』を忘れずに、入居者と家族が安心できる居心地の良いホームを目指し努力していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念をグループホーム内に掲示し職員が日頃から意識し日々のケアにつながるよう取り組んでいる。ホームは高台にあり、水難や崖崩れの不安のない場所にあるため、災害時の避難所としての役割を担う事業所となっている。地域とのつながりも深く、近隣住民や馴染みの人が日常的に訪れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える場所の数か所に掲示し理念を職員全員が意識して仕事に取り組めるようにしている。		各ユニットごとに談話室、台所、トイレの3箇所に理念を掲げている。新人職員に対しては入職時に理念と職員の心得について伝え、共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度老人会の方々や近所の方が来られ、季節の野菜や花をいただいたり交流をしている。近所の地区祭りに毎年出かけ、地域の方とふれあう機会となっている。		老人会会長が運営推進会議に参加していることでグループホームの理解を得られ、月に1回5～7名程度の老人会の方々が訪問している。地域の方の日常的な訪問があるなど交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、自治会長の協力をいただき、地区の方を対象に認知症サポーター養成講座を開いた。専門職を活かし、認知症を正しく理解していただき、認知症の人、その家族を支えられたらと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、行事や活動内容を報告し、様々な立場からの意見や助言をいただいている。いただいた意見を会議で報告し、サービスの質の向上に努めている。		外出について職員の人員不足が課題にあがった際、家族会より家族協力の提案を受け実行に移すなど、運営推進会議で出た意見をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より報告、相談をしている。担当者から緊急性のある方の入居の問い合わせなどに相談できる関係にある。		町役場の福祉課が行っている月1回の医療介護連携会議に参加し、福祉課職員と医療連携についての意見交換を行い、関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の適正化を図るため、自施設の指針を作成した。社外研修や職員会議で職員全員に周知徹底を行っている。やむを得ず実施する場合は職員会議で話し合い、運営推進会議でも経過報告を行い意見をいただき身体拘束の廃止に向けて努力をしている。		介護指定基準における禁止の対象となる行為について外部や内部の研修会を受けている。「虐待の芽チェックリスト」や「貴方の接し方の振り返り」を使用し拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修や施設内で勉強会を行い、職員のストレスの把握に努め、虐待予防に視点をおき虐待防止に努めている。			

認知症対応型共同生活介護用

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度について学ぶ機会が少ないが以前成年後見制度の活用に至ったケースもある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はわかりやすい言葉で説明をしている。不明な点を尋ねて、理解していただけるよう努めている。解約時は十分な説明を行い承諾いただけるよう努めている。利用料金改定や介護度の変更など個々に説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は散歩や入浴時などリラックスした時に入居者の思いを聞くように努めている。家族会では家族の意見や要望をさく時間を設けている。敬老会、忘年会などの行事に家族を招き食事をしながら家族や利用者が話をしやすい環境を心掛けている。	年に1回の家族会の開催や面会時、遠方の家族には電話にてその都度要望を聞いている。運営上難しい要望に対しても十分な説明を行うよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングで職員から意見を聴くようにしている。会議に施設長も出席し、回答や対応が早く、意見を出しやすい雰囲気を中心掛けている。	職員会議や朝礼、申し送りなど日頃から要望が言える雰囲気作りを心掛けている。要望に対して業務の見直しに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の状況について施設長と話し合う機会があり、個々の努力や勤務状況に応じた昇給や資格などの各種手当、希望休や有休を取れるようにしている。労働条件を見直し働きやすい職場環境に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修参加を呼びかけ、会議で研修報告を行っている。全員参加できるように努めている。資格習得への支援を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年より町主催で医療介護連携の介護事業所担当者会が始まり月に1回、交流する機会がある。事業所が抱える問題等についても話し合っている。また、グループホーム協議会での研修会、懇親会で交流、情報交換の場となっている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の言葉や表情などから本人の気持ちをくみ取り、家族やケアマネジャーの情報をいただき、安心できる環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談しやすい環境をつくり、家族の不安や要望の声にしっかり聞く姿勢に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族に話を聞いて、何が必要なのか話し合い、他のサービスの利用の検討や調整など対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している人として関わるように言葉遣いや態度に注意をし、共に支え合う関係に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の状況などを話し、お互い、相談や要望を話せるように心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が会いたい人、行きたい場所など普段の会話の中からくみ取る努力をしている。知人が遊びに来たり、外出の際は自宅に戻り隣人や友人と会う機会をつくっている。馴染みの場所にドライブにでかけたりしている。	利用者の馴染みの人や場所の聞き取りをしており関係が途切れないように支援している。また、日頃から併設のデイサービス利用者との交流に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の入居者の会話や表情、行動から関係を把握し、孤立することないように相席等を配慮するなど心掛けている。入居者同士が思いやり、支え合っていることを感じている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り先の関係者に情報を提供している。場合によってはカンファレンスに出席している。家族にいつでも相談できることを話している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いをくみ取ることを大切にしている。会議で情報交換し、KJ法を使って本人の思いや意向を職員全員が把握し、ケアの見直しに取り組んでいる。今後もこの機会を増やしていきたいと考えている。		職員はノートに一人ひとりの思いや意向を書き留め職員会議などで共有を図りケアの見直しに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活歴を聞いている。新入居者の情報は会議で報告し、新たな気づき等情報交換を行いケアに生かせるようにしている。小さなことでも気づきを意識して取り組むよう努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は気付いた事を記録に書きとめ、会議で情報を共有している。心身の状態の変化から一人ひとりができることに目を向け、それに気付けるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや希望をくみ取り、家族に要望などをきいている。職員の気付きも取り上げ、状態の変化に応じて家族と話し合いの場を設けて計画している。また、主治医等に意見をいただいているが少ない。		状態が変化し不穏が出た利用者に対して支援の方向性やその人らしさについて職員全体で話し合いケア内容を検討し空間や環境を変更し、支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や気づきを具体的に本人の言葉などを記入するようにしている。会議や申し送り意見交換を行い情報を共有しながら介護計画のサービス内容の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ病院受診や個別の外出支援など柔軟に対応できるように配慮している。十分ではないが協力できることは行うように努めている。			

認知症対応型共同生活介護用

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや老人会の訪問、散髪出張などはあるが地域資源活用に積極的な働きかけは少ない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿いかかりつけ医の受診や協力医の月に1度の往診を受けている。本人や家族が希望する検査や病院で治療が受けられるようにしている。認知症専門医受診では家族から納得・同意が得られるように話し合いをしている。	病院受診の際は家族が行っているが、場合によっては職員が同行し、受診の支援を行っている。毎月の往診により医療の管理が行えるよう支援に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりのいつもの状態を把握し、変化や気づきを看護師・管理者に報告、相談している。小さなことでも家族やかかりつけ医に報告、早期の発見、早目の受診で重篤化しないように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成、細かなことも看護師に伝えている。入院中は面会や医療連携室、看護師と情報交換をしている。必要に応じて理学療法士に相談・アドバイスをいただくこともある。退院に向けての調整などスムーズにいくように協力している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では職員や看取りができる医療機関が町内にないことなど体制が整っていないこともあり、看取りは行わない方針を家族に説明して、同意を得ている。本人の状態に応じて話し合い、訪問看護の導入や受け入れ先の確保など本人や家族の意向を大切に支援に努めている。	医療との体制作りが十分ではないため看取りを行っていない。入居時に看取りについての説明を家族に行い同意を得ている。状況に応じ随時話し合いながら、家族の意思を確認して支援体制を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員による緊急時の対応の研修を受け、職員会議で全職員に周知している。事故発生時のマニュアルを作成し、救急車の連絡方法などを掲示し冷静に対応できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練を行っている。近所の方にも参加をお願いし夜間を想定しての通報訓練、避難訓練や消火訓練を行っている。運営推進会議で結果を報告し協力をお願いしている。	年3回火災を想定した訓練を行っている。近隣住民の参加や消防団の協力を受けて訓練ができているが、消防団との連携は平素から行われていない。	地域住民の協力体制が得られるよう努力をしているが、消防関係とは訓練のみとなっている。今後、消防関係者と連携し、災害対策についてさらに協力関係を深めることに期待したい。	

認知症対応型共同生活介護用

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に自分に置き換えて考え、言葉かけや対応を心掛けている。しかし、職員によってばらつきがある為、定期的に職員会議等で誇りやプライバシー確保について具体的に確認し合っている。		年2回プライバシーについての接遇勉強会を開催しておりプライドを傷つけない言葉かけや接し方を学習している。排せつや配薬などの際の声かけにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に飲み物を選んでいただいたり、レクリエーションで何がしたいか希望を聞いたり、好きな服を選んでいただいたりといった、日常の中に溢れている自己決定の機会を大切に支援している。言葉での意思表示が難しい方にも、観察と情報収集で気持ちをくみ取るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務ばかりに気持ちが行かないよう、職員一人ひとりが意識しながら支援している。利用者一人ひとりのその時の気持ちを言葉や表情から汲み取って、食事や起床時間等、臨機応変に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力して頂き、馴染みの美容院に通っている方や、ホームで白髪染めをする方がいらしゃる。希望者は出張散髪を受けられるよう支援している。服等、欲しいもの・足りないものがあれば、家族に連絡して好みの物を持ってきて頂いたり、一緒に買い物に出たりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け・茶碗洗い等、一緒に準備や片付けをしてくださる方がいる。食事には四季を感じられるよう、季節の野菜や果物を取り入れたり、希望のメニューを取り入れ、職員も一緒に食卓を囲むことで食事がより楽しみなものになるよう支援している。	職員が献立を作成し、味付けや調理を一緒にしたり、行事食や誕生日には希望のメニューを取り入れるなど食事が楽しみなものになるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、一人一人の食事・水分量、栄養状態等を把握している。本人の状態に合わせて食器の色や形を工夫したり、食事形態を変えている。昼食前には嚥下体操を行い、誤嚥予防に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。本人の有する力に合わせた声掛けや介助をしているが、中には歯磨きを強く拒まれる方もいるため、スムーズにできた時の状況等を職員同士で共有しながら支援している。歯科受診が必要な場合は家族に連絡し、受診を勧めている。			

認知症対応型共同生活介護用

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は一人の方をのぞき、トイレ誘導や声掛けを行いトイレでの排泄を促している。排泄チェック表を付けることで一人一人の排泄パターンを把握し、出来る限りオムツの使用を減らしている。排泄の状況に応じて話し合い、本人と家族の意向も取り入れるように努めている。		排せつチェック表を使って、排せつの自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取を促し、体を動かす散歩等働きかけ便秘の予防に努めている。腹部マッサージなど個々の対応を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴をしていただく為に少ない人数での入浴をしている。入浴を拒む方は声かけやタイミングに合わせて行っている。好みにより入浴剤を使用していただき楽しめるように努めている。		入浴を拒む利用者に対しては声かけや時間帯など工夫している。本人のペースを大切に入浴を楽しむ支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのこれまでの生活習慣に合わせて、冬場は湯たんぽや電気毛布を使う方、畳に布団で休むなどそれぞれの希望に合わせている。定期的な布団干し、シーツの洗濯を行い、清潔を保つようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更はその都度、副作用も含めて職員に申し送りしている。状態の変化があれば主治医に連絡し、受診や薬の調整をしていただいている。誤薬のないように二人で確認、服薬後も飲まれたか確認をしている。服薬方法も個々に合わせた介助を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来ることを見極めながら家事の手伝いや趣味活動を行っている。得意な裁縫や料理、掃除、習字や壁面作り、計算など本人の希望に合わせて行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩や日光浴、隣接している施設に出掛けている。馴染みの場所にドライブに出掛けたり、家族の協力を得て外出もしている。園庭でお茶を飲むこともある。		天候の良い日は外に出て日光浴や浜辺の散歩などで気分転換を図っている。家族の協力をもらい美容室や馴染みの場所への外出の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方は買い物時におやつなど買う方もいる。家族に管理方法を説明し、本人の希望に沿えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から電話や小包が届き、本人から返事を書いたり電話をしたりしている。家族の声が聞きたい時は電話をするなど支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや家族写真を貼り、季節感のある飾りつけなど居心地良く工夫をしている。温度、湿度や光や音など不快にならないように配慮している。	習字や折り紙、創作物を趣味とされている利用者の作品を共用空間に飾り付けたり、季節感の飾り付けや室温、湿度、清掃に配慮し、利用者の居心地良い空間づくりに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で過ごせる和室もあり、気の合う人達が集い、ゆっくり過ごせる工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の写真や使い慣れたたんすを持ち込んでいる方もいる。カレンダーや動物が好きな方は動物の写真など貼って、居心地よく過ごせるように努めている。	タンスや家族写真、寝具など利用者一人ひとりの馴染みのあるものを持ち込んでおり居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は花を飾り目印になるように工夫している。椅子をおいてシューズを履きやすくしたり畳との段差をなくしたり安全面に配慮している。			